

平成 2 7 年度第 6 回総合教育会議会議録

日時：平成 2 7 年 1 0 月 1 3 日（火）

午後 1 時開会

場所：市本庁舎 4 階 庁議室

出席者	津市長	前	葉	泰	幸
	津市教育委員会	委員長	坪	井	守
		委員	庄	山	昭子
		委員	松	本	昭彦
		委員	滝	澤	多佳子
		教育長	石	川	博之

教育次長 はい。定刻となりましたので、前葉市長から第6回津市総合教育会議の開会のご挨拶をお願いいたします。

市長 それでは只今より、第6回津市総合教育会議を開催いたします。今日は協議調整事項として、まず、全国学力学習状況調査結果についての教育委員会における分析発表について、私の方にご説明をいただきます。もう一つは、大規模改造工事について、大きな方針をある程度定めて、設計の段階できちっと方向性を議論しておかないといけないと以前から思っていたのですが、中々、学校現場のことなので、教育委員会は教育委員会として考えを持っておやりになっているのでコミュニケーションが十分できていなかったですが、総合教育会議ができたということを機にしっかりこのようなことを議論しようというものでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育次長 ありがとうございます。本日の協議調整事項としましては、先ほどのようなご挨拶にもありましたように、まず、(1)平成27年度全国学力学習状況調査結果についてと(2)学校施設の活用に配慮した新町小学校の大規模改造工事についての2件でございます。それでは早速、協議調整事項の平成27年度全国学力学習状況調査について入りたいと思いますが、この事項につきましては、事務局から資料1でございますが、それに基づきましてご説明させていただきたいと思っております。

中川授業改善担当副参事 失礼いたします。授業改善担当副参事 中川と申します。どうぞよろしくお願い致します。平成27年度の全国学力学習状況調査結果と改善の方策を取りまとめましたので、報告いたします。

資料1-1の表紙をおめくりください。目次にありますように、報告書は6点に分かれます。1点目は学力・学習状況調査の概要、2点目は津市の結果と平成24年からの経年変化をグラフで示しました。3点目は小中学校とも教科別・設問ごとに分析を行い、課題を抽出し、改善方策を提示しました。4点目は児童生徒質問紙から見える課題と改善方策をまとめました。5点目は学校質問紙から見える学校の取組みに対する課題と改善方策をまとめました。6点目は今後の改善方策として教育委員会の取組み、学校の取組み、家庭での取組みをまとめました。

2ページをご覧ください。平成27年度の結果概要です。本年度は小学校国語A・B、算数B、中学校国語A、数学A、理科で全国平均以上となっております。昨年度課題でした国語B、算数・数学Bの活用に関する問題については、小学校は全国平均を上回る、中学校においても全国との差が縮まっています。

3 ページ、4 ページをご覧ください。平成 24 年度からの教科ごと、領域ごとの経年変化をグラフにしました。

5 ページをご覧ください。ここからは教科ごとの結果に対する分析と改善方をまとめました。まず冒頭に、津市、三重県、全国の平均正答率を一覧にまとめました。次に、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことのように各領域、設問ごとの正答率から課題を抽出いたしました。

6 ページをご覧ください。同様に国語 B 問題も設問ごとに分析を行いました。

7 ページをご覧ください。ここでは児童質問紙から見る国語指導についての課題を取りまとめてあります。

8 ページをご覧ください。ここには小学校の国語の学習指導改善のポイントをまとめました。特に本年度、課題となる内容を、知識に関する調査では 2 項目、活用に関する調査で 2 項目を取り上げ、その改善ポイントを示しました。

同様に 9 ページから 27 ページまでは、算数、理科、中学校についても同様にまとめました。

28 ページをご覧ください。ここでは児童質問紙調査結果を、授業について、家庭学習について、基本的な生活習慣について、規範意識についての内容に分けてまとめました。

30 ページをご覧ください。ここでは学校質問紙調査結果を指導方法に関する内容、32 ページに家庭学習に関する内容、校内研修に関する内容に分けて分析しました。

今までの内容を 34 ページ、35 ページに取りまとめて、今後の改善方策として示しております。34 ページをご覧ください。まず、各教科の主な課題は、国語では目的に応じて文の一節や語句を適切に引用すること、複数の資料から適切な情報を抽出し、自分の考えを具体的に書くことに課題が見られました。

算数・数学では、示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉え、基準量を正しく求めること、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現で説明することに課題が見られました。

理科では、変化の様子を分析したり、変化の要因とを関連付けて考えること、考察等を検討して改善する際は、多面的、総合的に思考することに課題が見られました。

これらの課題を踏まえ、教育委員会では 4 点の取組みを進めていきます。

まず 1 点目は、指導主事の学校訪問等による指導力向上支援を行います。内容につきましては、1 つ目、本年度特に強化したい項目として、読解力をあげます。これを高める指導改善を行っていきます。2 つ目、見通す、振り返る学習活動の更なる推進を行っていきます。3 つ目、思考力、判断力、表現力の育成に向けた言語活動の充実を図っていききたいと思っております。

2点目は、学力向上に向けた小中一貫教育の推進を図り、発達段階に応じた指導が効果的に展開できるように支援していきます。

3点目は、家庭における生活習慣や学習習慣の見直しを図る取組みの推進を図っていきます。特に家庭学習習慣を身に付けられるよう読書ファイルの活用方法の提示や家庭学習の手引きの改訂など、保護者啓発等、中長期的に取り組んでいきます。

4点目は、授業改善に向けた研修会の充実を図ってまいります。

学校おきましても4点の取組みを進めます。

まず1点目は、調査結果を活用した指導改善の取組みを進めます。

2点目は、授業改善として、4項目に重点を置いて取組みを進めます。1つ目、子どもたちにわかった、できたを実感させる授業改善の取組みを進めます。2つ目、学びを深めるための取組みを進めます。3つ目、思考力、判断力、表現力を育む授業への取組みを進めていきます。4つ目、学び合いを大切にした授業への取組みを進めます。

3点目は学力向上に向けた小中一貫教育の充実として、9年間を見通したカリキュラムを作成し、きめ細やかな学習指導と生活指導を推進します。

4点目は家庭での生活習慣や学習習慣の改善への取組みを保護者と連携を図りながら取組みを進めます。

最後に家庭での取組みとして、3点を大切にさせていただきよう啓発を図ってまいります。まず、1点目は家庭学習の習慣づくりとして、集中できる環境づくりを目指していきます。2点目は規則正しい生活習慣の確立として、早寝早起きをする、朝食をとる、メディアとの接触時間等、基本的な生活習慣の確立を啓発いたします。3点目は子どもの自尊感情を育むために、積極的にコミュニケーションを取ることを啓発しています。以上で報告を終わります。

教育次長 それでは、先ほどの報告を聞いていただきまして、各委員の皆様、ご意見等いかがでしょうか。

市長 私からのお願いは、こういうふうな現場レベルでの分析がされたわけですが、それについて各委員、いろいろとお感じになっていることがあると思いますので、それについてご発言いただきたいんですが、これは分析であって教育政策論にはまだなっていないんですよね。つまり、こういうことを教育委員会として、あるいは学校で、家庭でやるべきだという一定の評価なり結論なりは出ているわけですけど、これを実際、効果を高らしめるために、どういうお金の出し方をすればいいのか、どういう人員の増強をすればいいのかということまで書いてないんですよね。もっと遠慮なしに書けばいいと思うんだ

けれど、なかなか書かないですよ。書いても実現しないと、責任を問われるから書かないのかなあという気もするのだけれど、だからそういうところが、もっとシャープに、これをやってくればもっと子ども達の学力は上がりますみたいなことを堂々と書けばいいんだとずっと私は言い続けているんだけど、奥歯に物が挟まったのを前葉に見せぬという感じでありまして、まあそういうところなんですね。ご自由にご発言ください。

庄山委員 今おっしゃるとおりで、私もそのように感じておりまして、私自身、それにプラスアルファのような考えなんですけども、教育委員会で考察をしまして、しっかり考えてもらったと思います。それで、教育委員会から学校にどのように下ろしていくか、どのように保護者に対応していくかっていうことは、ここである程度見えてきたように思うんです。しかし、この総合教育会議という会議では、それは報告であって、その後、今、市長さんが言われたようにどのような政策をしていくのかというようなことが、ここで話さなければいけないんだろうというような同じようなことを私も考えています。ひとつは、子ども達がしっかり学習に取り組めるような環境整備をしていただくというような、現在、エアコンの話もしていただいておりますし、それから学校の大きな改修もどんどん進めてもらっておりますし、学校が地域のためにどのような学校にしていけばいいかというのは、この後も話し合いがございしますが、そのようなこともあります。それから、もうひとつは、市民へのPRというのが、教育委員会だけではちょっと弱い部分がありますので、市全体で学力がこのようなことで取り組んでかなり成果が出ている、さらに子ども達の学力を高めるためにはどうすればいいかというようなPRを、市長さんの何かのお話をされる時に、教育的なお話をされる時に、このようなお話をしていただくのが非常に効果があるのではないかと。それから、小さなことですが、学校が開いている時間帯は学校が責任を持って子どもたちを見て、3時以降はどういうふうな宿題をしたらいいとか、家庭学習はというような、その日の時間は非常に短いんですけども、長期休業について、非常に大切な時間であるにも関わらず、割とこう自由にやりなさい、それはとてもとても大切なことなんですけれど、もうちょっと子ども達が学力を高めるような政策をした方がいいのではないかと思います。そのために、とりあえず考えられるような事の一つは、例えば図書館を夏休みだけは全部、子ども達のために開きましょと、休みなくやりましょというので、是非、いつでも図書館に来て、長期休業中は勉強が出来るような環境がありますよというようなことも一つだし、それから、資料館の充実は、津市で言いますと、県の博物館とかそういうのを使わせていただくようなことになるのかなあと思うんですけれど、そういうような宇宙とか自然とか、

そういうものが子ども達が気楽に行って学習できるようなものがあればいいのかなってことを考えながら、夏休みについて細かいことは教育委員会で責任を持って学校と一緒に進めていただくという考えを持っております。

市長 はい、ありがとうございます。滝澤さん、どうぞ。

滝澤委員 私、国語教育っていいですか、今回、読解力に課題があったってことが、非常に問題だなあって思っております、やっぱり頭で考える、全て日本語で考えたり、試験問題を理解する、回答する前に試験問題は何を問うているのかということを理解するに当たって、読解力というか国語力というのが非常に重要なのではないかなと思っているんですね。それで、英語教育が入るっていうのは良いことだと思うんですけども、その前に日本語教育、国語教育というのが何よりも大切なことであるかなあと、数学の問題を解くのも国語で問うわけですから、出来たら読解力を高める指導を、ここでも課題だということに取り組んでいただいているんですが、更に取り組んでいただきたいと思うわけですね。それから、学校現場だけではなく家庭での教育も非常に重要で、なおかつ、市民、地域の教育というのも非常に重要だと思うんですけども、こういうことを言うたら批判を受けるのではないかなということ覚悟の上で皆さんに理解してもらって、教育に協力していただくという環境を整えるためには、何らかの数値目標を、平たく言えば短い言葉でこれを目指そうみたいな、あえて批判を覚悟で申し上げますと、たとえば「目指せ学力日本一 津市」というようなキャッチフレーズみたいなものを掲げると、それに対してどうやってお金を使うか、どうやって協力していくか、というようなことが、市民にも保護者にも地域にも、子ども達にも非常に分かりやすいのではないかなと思っているんです。もちろん学調の結果は学力のほんの一部であるということは十分承知しており、過度な問題ある行動も出てくるのではないかなということも承知はしているんですが、子ども達の知識の定着だけでなく、意欲でありますとか、家庭環境でありますとか、基本的な生活習慣ですね、それから体力ですね、こういう全てのものが揃ってないとこの学力の向上ということはなかなか難しいのではないかなと思うんです。そのためには、よく分かると言いますか、市民や保護者はこの学調の結果を非常に重視されており、私が市民の方とお話する時でも平均点あたりをうろうろしており、もう少しなんとかならんかという声をお伺いするので、何か目標を持って取り組めば、それに向かってに収斂していくものではないかなと。学調も重要な要素ですので、何か数値目標みたいなものを立てていただければ、その目標に向かって、例えば、お金をどう使うとか、先生の指導力向上の支援ということも第一番に挙げられておりますが、研

修なり指導人員の増強など、教科の指導や活動に専念できるようなお金の使い方という方策も出てくるのではないかなと思っております。詳細な分析、どうもありがとうございました。

松本委員 学校教育という枠組みの中で、具体的にこういう方策を示していただいていますので、実際今年も効果が上がっているということです。具体的に指導していつてもらいたいと思うんですが、平均点がどの辺にあるかというところから分析すると、山が正規分布していないといった時に、例えば、学調以外の指標でも二極分化しているみたいな話をよくお聞きするのですが、そうなった時に、例えば、正答率があまり高くないというようなあたりと比較的高いあたりの方策は変わってくる、別の方策が必要ではないかということがあると思うんです。例えば、報道なんかでも、最近の子どもの貧困率が16%ということで、6人に一人が経済的にしんどい家庭にいるということで、全国調査ですから津市に限ってということではないと思いますが、平均点を上げる中でも、子どもの貧困を考えて、例えば、朝食を食べない子どもは正答率が低いという結果が出ているとすると、啓発ということもされていると思うんですが、学校教育という枠組みの中だけでは難しいところがあるかもしれませんので、行政の福祉とかも絡めて、家庭での学習っていうのがすんなり出来ていく環境を教育と福祉の両方の面で考えていく必要があるかなという気がしました。

また、講師を二通りに分けていただいています。2つの山があるとすれば、それぞれに対応できるということでは有りがたいことだと思います。キメ細かく点で見ていくという点でいろいろ考えるところもあるかなと思いました。

もう1つ、ここでは関係ないのかもしれませんが、正答率がものすごく高いところでもし考えるとしたら、この調査は全国共通する同じ問題を作って、同じ尺度での正答率ということになっておりますので、それをずっと推し進めていくと、点が高い方がいいとなっていき、結局、中央志向に傾いていくような、津市や三重県の中で将来活躍しようという意識を持ってもらおうというのが一方であるとする、点数が高いほどいいんだよとなってしまうと、何か中央を目指すみたいなのところだけに収斂すると良くないなという気がしまして、留意点のところにも書かれています。そういう学力を向上させるという一方で、津市に対する思いを別のところで養成していく必要もあるのかなという気がしました。

市長 面白いポイントをご指摘いただきありがとうございました。

坪井委員長 少し視点が違うかもしれませんが、私が教育に携わっていて、教

員として、第一義的に、学力テストのあるなしに拘らず、教育の水準や学力の向上については、学校教育の当然の務めであるという意識に立つことが大事かなど。確かに、フォローはしていただきたいのですが、こういう結果を見て、教員として、いかに毎日の授業をするか、子ども達の理解についてもそういう気持ちがいかに高まっていくかどうか、それが第一にないと、周りの方でしっかりと手立てはしていただいても、結局は、まず、学校がしっかりとやっていくことが大事、そんな感じがします。例えば、教育を考える時に、質と量と環境整備の3つに分けると、質でいうと先生の質だと思うのです。私も小学校から中学校へ上がった時に、先生との出会いによって教科が好きになった時がありました。例えば、理科が苦手であったけど、得意な先生に教えてもらった。これは、専門性が高いわけで、教員としての魅力がある人という大きな要素があって、その後に指導方法とか技術があって、そういう先生は育っていく。もっとも大学の先生の力をお借りすることもあるだろうし、指導主事の先生など、それに堪能な人に指導を受けることで力がつくと。例えば、ただ人材が欲しいということではなくて、それなりの専門性を持った人に養成段階とか、研修段階とかで、先生の力量を付けていく、そういう施策としてあるんじゃないかなという気がしています。市長がおっしゃっていたようにエアコンとかですね、こういった環境整備とかは教育委員会ではできませんので、これは市長の力をお借りしながらやっていったりしていくのも大事だと思います。それからですね、やっぱり福井とか秋田もそうですけど、小さいころからのしつけとか学ぶ習慣づけというのは、小さい時から必要ということも私はよく言うのですが、もうちょっと幼児教育と絡ましていくのも大事じゃないかなと思います。急に小学校に入ってから学力がどうだっていう、そういう問題ではなくて、幼児の段階から勉強させなさいというんじゃないくて、学ぶ、そういったもののへの興味付けというのも、少しずつやっていくのが大事かなというふうに今考えているところです。あと、最後ですけれど、最近ノーベル賞をいただいている方たちをみますと、今私たちは義務教育の学力がどうのという話でつい言ってしまいうのですが、本当に長い将来を見て、学問に近いような、長いこと学び続けるというそういった子どもを育てていかなければ、やっぱり本当の意味の教育に携わっている者の仕事にはならないんじゃないかなという、そんな思いをしながらこれを見させていただいておりました。

市長 今4人の委員からお話をいただきました。ここで教育長に提案というか、少し考えて欲しいなと思うのは、ここは総合教育会議という場所では、教育政策の在り方みたいなものを割合自由に議論できるんで、来年度の政策展開に向けて、総合教育会議としてはこのようなことを考えましたよ、というようなこ

とをね、ちょうど庄山先生がおっしゃったように市民へのPRを含めてなんだけれども、例えば、来年1月1日の広報の展開みたいなことの中でできないかな、というのを思いながら考えていたんですが、中身、コンテンツは、もう1回、次回議論すればいいと思うんです。まず、こういう結果が出ましたという時にbecause（理由）がないというか、弱いと思うんですよ。難しいことですが、こういうようなことをやったので成果が出ましたみたいな。例えば、さっきの坪井先生の言葉をお借りすれば、先生がこういうふうに頑張った教育現場で、こういうところに力を入れて教えたら、やっぱり結果が出たとかね。それから、ひょっとしたら校舎がきれいになったからいい結果が出たとかね。環境整備とかそういうのはあるかもしれないし、あるいは少人数クラスを増やしたのでよりきめ細かい指導ができた。そういうのは、1対1で対応しないことは百も承知なんだけれども、何か言えないかなという感じがするんですよね。実際に平成27年はいいい結果が出てるんだから、それはもう遠慮なしに市民に向けて、こういうことで津市の子供たちの学力は向上しつつありますよと言わないといけない。この報告書は私に上がっていますが、市長がいろんなところでしゃべる時に、こういうふうに市長は堂々と言ってください、そういったことを言ったらどうですかという提案というのが残念ながら私に上がってこないんですよね。こういうふうな分析で、市長の自分の口でどういうふうに子ども達の学力が、今こういう状況でこんなふうに良くなってきていて、更にこういうところに力を入れていますので、もっと良くなっていくように頑張っています。そういうことを私が一人で分析して、理解して、しゃべる、というよりも、それは教育現場としてどういうふうに捉えていて、政策を論ずる場総合教育会議がそれをどんなふうにそれを分析していて、それを私が総括してしゃべる。そうでないと、私が教育のコンテンツのところで勝手に入り込んで、勝手に解釈して、勝手にしゃべっちゃう、それはそれで危険なことなんで、是非そこを少しやって欲しいなというのが1点です。それに関連して、もっとコミットメントがいると思うんですよね。こういうことをやってくればこういうぐらいに結果出しますよ、みたいなね。これはなかなか言いにくいと思うんだけどね。これも1対1の対応もなかなかしにくいとは思いますが、それは滝沢さんがおっしゃったような「学力日本一津市」を目指して、どこにお金を使うかということを考えようとした場合に、そこへお金を使ってくれるのならこれだけ絶対成果出しますみたいな決意表明をしてもらわないと、なかなかお金も出しにくい。学力向上で何をすればいいの、お金をどこへつければいいの、予算をどこへ重点配備すればいいのという時に、そちらからここをやってくればこうしますよみたいな話がないと。やってよ、結果は分らんわな、といわれても力抜けるし、せつかく総合教育会議ができたんで、是非、そういうコミットメントに

近いようなことを言えないのかなと。せっかくいい方向に転がり始めたんで、そういうのが有機的に連携、結び付けられると、上手くいい方向に歯車が回っていくのかなという感じがするんですけどね。これをなんとかもう一押し、二押ししたいですね。

教育長 はい、資料１の２のところにあるように２６年、２７年とずいぶん向上したところがございます。思考力のお話はですね、津市で考えるとどうなっているかと言いますと、小中一貫をやったおかげで、小学校のゴールが６年生じゃなくなった。これがですね、思考力、とくに論理性をもって説明する力、それから読み込む力に力を入れてきたことによってＢ問題が上がったということになります。これについてはですね、先ほど委員長が言ったように教育の力と支える施策の力があります。２６年度から２７年度に向けて取り組んだ中で、生きる力サポーターあるいは特別支援教育支援員の増員、これがですね、これがどうしたかと言いますと、数ではなくて、効果的に利用することを去年議論して展開してきました。さらに、そういう施策が必要かということについては、今、各学校単位での分析もしております。これを合わせて、本当に効果的な施策が何かをしっかりと考えて、予算要望の中でもお話していくことになっていきますけれど、我々も単に増員だけではなくて、効果的にスクラップする部分とプラスする部分を考えて、しっかりと検討し、対応していきたいと思います。それと、各委員がおっしゃられた人づくりの部分、徳育、習慣づけ、規律問題これも並行して、非常に両輪として大事な部分でございます。こういうバランスを取りながら、教育のやるべき力と施策として支えるところ、それからもう一つが、先ほど少し出ましたが、施設のトイレの改修、非常に大きな効果もありますので、こうした環境整備というのを含めてですね、総合的に捉えて来年の政策をまた考えていきたい。また、そういう場をもっていただけたらなと思います。

市長 だからそれは結構だと思うんで、その方向、それを共有というのではなくて、コミットメント、もう少し自分達の問題として、教育施策を立案する教育委員会自らの問題として打ち出してもらいたい。学力学習状況調査が全てではなく、それ自体が目的になってはいけないんですが、総合教育会議として、そこから分かること、或いは、それを基にもう少しやりたいというような建設的な案を持ちたいなと思うんですけども、いかがでしょうかね。

坪井委員長 おっしゃるように、中身よりもやはり、私達は具体的にどうしていきたいかということになるんですけど、教育は人づくりですから、人に対するお金と言ったらおかしいですけど、かけていただくことで、随分、子どもの

学力というのは上がると思います。私自身の経験値から言って、意外と当たっている場合があります。やっぱり教育は人なんですよね。ただ単に闇雲に教員が教えるのではなくて、きちんとした理論構築をしながら、ベテランの方、或いは、専門の方に指導を受けること。特に、年配の先生方は各学校からかなり退職されて非常にアンバランスな学校の組織体制になっているんですよ。それは、もうちょっと健全な職員配置というか、構成にしていこうと、ある程度変わってくると思いますので、このあたりは、人事の配置で出来ると思います。それ以外にある程度、例えば指導主事さんとかですね、かなりフリーにしている方もみえるかと思うので、そこへ入っていただくことで刺激になると思うんですよ。そういったところにも、施策として教育委員会として考えられたらなあという点が一点ありますね。

庄山委員 一つよろしいですか、私が、教育委員の一員なので、手前味噌みたいなことを言っていたらあかんですけれど、非常に努力をさせていただいて、非常に効果が出たというか、素晴らしいことを少し、お話をさせていただきたいんです。各学校の努力なんですけど、学校が何年かけて大学の先生を定期的に呼ばれて、そして先生たちが研修を積んで、その授業を昨年私も1時間か2時間か見せていただいたんですけど、非常にレベルの高い授業をされている学校があります。やはりその学校の様子を聞くと、学力学習状況調査の結果も良いということで、やはり、校長先生のその指導力と先生達の努力と、それから教育委員会のサポートで、大学の先生を呼ぶという資金的な面で、学校からの要望、非常に強い要望があったんだと思うんですけど、そのようなことで、非常に効果を挙げていく学校であるとか、或いは、その校長先生が新聞のコラムを生徒達、中学生に書かせて、読解力がだんだん高まってきたというようなことも聞いております。やはり、まあ、教育委員会が何とかしようということで、津市子ども達を何とかしようということで、非常に努力をさせていただいて、そして、それを校長会で話をし、或いは研修会の研修委員の研修会で話をし、そういうことによって各学校でいろんな、策を練って練って練って、こういうようにしようということで、先生達が努力をされているということは、非常その良い効果、結果を生み出しておりまして、やはりそういうようなところで、多少、その資金的なところで、援助が教育委員会から要ると思いますので、ご協力をいただいて、学校がそういうようなことが出来るように、お金がない、お金がないというようなことがないように、ある程度その努力をしようとするところには、資金援助をしてあげるような形でしてあげてもらいたいと思います。で、まあ、この1ページに載っております留意点につきましては、これは私達教育委員会としても、重々、一番下の留意点ですけども、学力が全てで

はないということで、例えば、運動と学力のことであるとか、よく遊びよく学べとか、勉強ばっかりしとったらええんやというようなことになってしまうとね、やはり、いろんな問題点も沢山出てくると思いますので、そこらへんもトータル的に考えていかなければいけないなというふうに思います。

市長 はい、今の庄山さんのお話にあったように、例えば、こんなような学力向上を実現している現場がありますよという紹介でもいいでしょうし、おっしゃるとおりもっと市民に分かるというか、やっぱり教育がどういうふうに行われているか、それこそUターンをしてもいいかどうかということ判断する居住選択の判断の一つでもあるので、是非、前向きにやりたいなと思います。では、あの次回、この平成27年度全国学力学習状況調査の結果を受けた学力向上施策の展開についてということで、議論をもう一回この総合教育会義でしたいと思いますが、よろしいでしょうか。では、次回引き続き、そういうことで議論をさせていただきたいと思いますので、教育委員会事務局において、その議論のベースになるものを。

教育次長 そうですね。

市長 お出しいただくようよろしくお願いします。はい。

倉田教育次長 それでは1の項をこれで終わらせていただきまして、2番の学校施設の活用配慮した大規模改造工事についてに入らせていただきたいと思います。で、この項につきましても、事務局の方から資料2がございますので、ご説明をさせていただきたいと思います。

教育総務課長 平成18年度から27年度までの学校施設整備費の推移でございます。合併初年度の平成18年度は、旧市町村から継続している事業もありましたことから、12億円を超える事業費でございましたけれども、翌年には多くが終了し、5億円を切る水準となってきました。その後本市では計画的な学校施設の耐震化への取組ですとか、大規模改造工事等への取組、トイレ快適化計画に基づく取組など、学校施設に係る整備費を重点的に配付する中、平成25年度の整備費は約17億3千万円、それから平成27年度は現時点での契約額及び未執行事業の予算ベースでございますけれども、20億円ということとなっております。次の表につきましては、平成24年度から27年度にかけての学校施設の整備状況でございます。最初に校舎の大規模改造工事でございますけれども、白塚小学校、神戸小学校、一身田中学校につきましては、

平成24年度からの工事が昨年度末で完了いたしました。また昨年度から一志西中学校の工事にも着手しており、平成28年度の完成を目指しているところでございます。さらに今年度は新町小学校の設計業務を進めておりまして、平成28年度から着手します大規模工事に向けまして、その取組を進めております。次に、校舎の増築工事でございますけれども、児童生徒数の増加への対応といたしまして、平成25年度に久居東中学校、本年度は戸木小学校の増築工事を進めております。プレハブ校舎の改修に向けては、本年度、南が丘小学校の校舎増築工事に着手いたしまして、また、平成28年度からの増築工事に向け、西が丘小学校の設計業務を進めているところでございます。また、小中一貫教育に伴う整備といたしまして、本年度から次年度にかけまして、平成29年4月に開校予定の美里地域の小中一貫教育施設の整備を進めさせていただいております。校舎の改修工事に関します学校の再編に伴う改修といたしましては、一志地域の小学校の再編に伴いまして、平成25年度に一志西小学校の整備を行っております。それから、学校におけるトイレ環境の改善を目的として策定いたしましたトイレ快適化計画に基き、平成29年度の完了を目途に洋式化への計画的な改修を進めております。その他の施設の維持工事につきましては、学校施設における修繕工事の実施に伴う経費でございまして、これらの年度別の事業費の合計が、黄色の枠に記載の金額でございまして、平成25年度の整備費が約17億3千万円、本年度は先程申し上げましたように約20億円というようなこととなっております。

恐れ入ります。次の2ページを御覧になっていただきたいと思います。2ページにつきましては、先に申し上げましたが、学校施設の整備の状況でございまして、校舎の大規模工事、それから、校舎の改修工事、校舎の増築工事、それから、トイレの快適化計画、洋式化への改修というようなことで、それぞれ写真を含め、実際の改修料を取り上げてお示ししておるところでございます。

恐れ入りますけれども次の3ページを御覧になっていただきたいと思います。これまで御説明申し上げました大規模改造工事等につきましては、適切な教育環境の確保の観点から行ってきたわけでございますけれども、一方で学校施設は地域における大切な財産でございますので、大規模改造工事等につきましては、同時に地域の住民の方の学校施設の活用など様々な観点から十分に配慮をする必要があると考えるものでございます。こちらの3ページにつきましては、先程申し上げました新町小学校の大規模改造工事に向けた設計業務を進めている中での現在の案ということでお示しさせていただくものでございますけれども、この3ページは配置図ということになります。こちらの学校につきましては、普通教室棟と給食室から構成される一つの建物と特別教室、屋内運動場からなる特別教室管理棟から構成されております。

恐れ入ります。次の4ページを御覧いただきたいと思います。特別教室管理棟の1階2階の平面図でございます。先の総合教育会議で御協議いただきました放課後児童クラブについてでございますけれども、校舎内に組み入れることにつきまして、位置ですとか面積等の変更はございません。それから、この中で、1階の左手の方に会議室ということで記載しております場所につきましては、現在オープンな多目的室でございますが、災害時における避難場所、それから地域における会議スペースとしての活用を視野に入れまして、会議室への変更を予定しておりますものでございます。それから、その上に太枠で小会議室2とございますけれども、こちらにつきましては、災害時に地域の方々が本部機能として活用していただくことを視野に整備を考えておりますものでございます。それからその右側の波線の部分につきましては、現在の放課後児童クラブでございますけれども、新たな放課後児童クラブが校舎内に設置された後、地域の方々から、地域解放施設として使用したいとの御意向もございますことから、当面残していくことも考え、予定するものでございます。それからこのページの中で、二重線囲みの中で3階屋内運動場大規模災害時対応とございますけれども、そのことにつきましては、次の5ページを御覧になっていただきたいと思います。こちらの小学校は、特別教室管理棟の3階に屋内運動場が設置されておりまして、大規模災害時に多くの方が避難された際は、こちらの屋内運動場を御利用いただくことになるというふうに考えておりますが、更衣室をはさみまして、左手に普通教室の設置を現在予定しております。こちらの普通教室には、テレビですとかエアコンの設置を予定しておりまして、例えば災害時における情報収集の場として、また、体調等がすぐれない方々が、適切な空調環境のもと、避難を継続していただくことが可能になってくるのではないかと考えるものでございます。6ページにつきましては、普通教室棟でございます。こちらの棟では通常の教室の改修を予定しておりますものでございます。また、今回の大規模改造に合わせまして、トイレの洋式化に向けた改修も併せて行参りますので、より快適な環境を提供させていただくことが可能になってくるのではないかと考えております。先程も申し上げましたけれどもこれから学校の大規模改造工事につきましては、適切な教育環境の確保の観点というものだけではなく、地域における大切な財産であることを踏まえた様々な観点からその大規模改造工事については考えていく必要があると考えております。また、既存施設の活用というのは維持管理のコストの削減を目指す観点からも今後必要になってくるものであると考えるものであります。今回この新町小学校につきましては、放課後児童クラブですとか防災を主な観点到触れて参りましたけれども、各学校によってそれぞれ置かれている環境でも異なる点があるということも考えております。以上で説明を終わらせていただきます。よろしく御協

議いただきますようお願いいたします。

市長 では、只今説明がありましたことについて、委員の皆さんから御発言をお願いいたします。何かお気付きのこととか、あるいは御感想とか。

坪井委員長 本当にこういう大規模改造ということで、各学校進めていただいています。やはり子ども達の気持ちというのはすごく変わってくると思いますし、トイレの改修なんかもですね逆にトイレが楽しいと言ったらおかしいですが、この間小学校に行った時に、子どもたちが新しくなったトイレに駆け込んでいくというか、並んでいるというか、久しぶりにそんな姿を見ました。本当にありがたいことだと思います。最近この大規模改修でこうしたらいいなということでは、やはりコミュニティ・スクールと言うんですかね、賛否両論あると思うので分からないですけど、やはり国の方でも29年度までには全公立小中学校の一割に拡大していくというそういう目標値が出ていますので、私は是非こういう大規模改修なんかを機に地域の人たちがより集まれるような体制作りをしていくのが大事かなというふうにすごく思っています。特に、学校は、夜はせつかくの教室ももったいない形で空いていますので、そういった意味では地域の方達がですね、もっとこう学びの場として、活用していただければ、そういうPRも、教育委員会一緒になってさせていただく必要があるのかな。それから防災ですね。こういった意味では学校というのは、防災も今は地域防災協議会の方が、結構やっけていただいておりますので、そういう活動と連動していくのは大事かなというふうに思っています。

庄山委員 思い出しますのは、一身田小学校が、当時の校長先生がもう7、8年前ですけども、あの学校の児童数でトイレの数を割ると、男女みんな一緒にして、1つのトイレで、10分間に60人がトイレを使用せなあかんというような話をされていたのをこれ今見ていまして、思い出します。そういうような意味で、トイレの数とかいうことも大事ですし、それから美しいって、各家庭が非常に綺麗な環境になりつつある現在で、学校だけが何か立ち遅れています。もう少し前は、学校が何もかもトップで、学校へ行ったらなんでもあるよ、素晴らしいよ、というような気持ちで学校へ来た子どもたちが、今度逆になっているというような時代で、今こんなふうに改修していただきますと、また学校へ来るのが多少楽しくなるのではないかな、トイレが美しかったことが本当に嬉しいな、というふうに思っております。以上でございます。

滝澤委員 こんなに綺麗にさせていただいてありがとうございます。本当に教育

する環境が美しいということは、非常に教育効果が高くなるんじゃないかなと思いますし、校舎が新しくなると、やっぱり綺麗にしようという意識を、皆さん持たれると思います。汚さないでいようとか。また綺麗にさせていただいたことで、そういう教育にも役立てていただくと良いかなと思います。ありがとうございます。

松本委員 新町小学校の改修で、特に防災関係で避難の機能とかいうのが拡張されるように思いますので、もっと沿岸地域ですと津波とかいうのがありますので、そこで避難できない人たちが移動してくるってというようなことも有り得ると思いますので、広くそういうスペースが有り得るとするのは、防災の面でもありがたいことだというに思います。

教育長 大規模改修をするときに、教育委員会の中でも、例えば、学童とかですね、色んなセクションと十分に協議をすることがとても大事だった訳ですが。それからあの、今回の新町にもありますように、地域と協議をする中で、特に新町は体育館が校舎の中の3階にございますので、少し防災をクローズアップして、色々地元とも調整をして、こういうふうに校舎を活用して、地域の方も利用できやすいように、あるいは学校としても利用できやすいように十分に協議をしてこういう形になってきたと。これから大規模を進めていく上でひとつのモデル的にどういうふうにその協議をしていかないといけないのかなっていう大きなポイントがいくつかあったかと思いますので、こうした協議を幅広くこれからも進めた形の大規模を進めていかないといけないっていうふうに切にこう新町小学校で思ったところです。

市長 ありがとうございます。その通りですね。ポイントがいくつかありますね。非常に美しく、みなさんまとめていただいておりますけども、現実はいね、相当シビアというか、ここ4、5年私が向きあっている現実というのは非常に驚きの連続でありました。本当に今ですね、60人のお話、庄山さんからありましたけど、この2ページご覧いただきますとね、この左側が洋式化率10%未満校の解消といって洋式トイレが10器に1器以下だということのをまず解消していこうということでやった訳ですね。全部で小学校が15校で中学校が5校ですか、やっている訳ですけど、それでもまだ子ども達が並んでしまうという話を聞いて、今度は全然別の数字の取り方をして、洋式便器1器あたりの子どもの数っていうのをやってみたら、確かにものすごく多いところがいくつかあって、それは、洋式化率は結構高くてもまだ子どもの数が多いところがありましたので、トイレ快適化計画を直したときに、27年から設計に

入るところは、こういうルールに変えました。普通ならですね、洋式化率10%をクリアしたら次20%を目指すのですが、そうはいかなくって、全然違う指標に変えて、ひと組の洋式便器に対して20人を超えているところをまずは解消しようと。手を変え品を変え色々やっている訳であります。それから新町小学校も綺麗になると良いんですけども、現地見てきたらすごい雨漏り、もう天井がめくれあがっている様なところもあってすごいんですね。確か、昭和47年頃の建物なんですよ。

教育次長 昭和47年です。

市長 もうこれは放っておけないということだと思いますし、それから防災として体育館に近いところの教室を解放できますよということも今回初めてしてくれるんですけど、これはもうずっと、体育館に避難しても暑いし、テレビもないし、ずっと言われ続けているところへの対応なので、私としては、こういうのを契機に、当たり前やらなきゃいけないことを当たり前やろうというふうにやっているつもりでありますけども、そのことが良いことだとおっしゃっていただいて心強く思いました。その中で、最後に教育長が言われたポイントがいくつかあって、やっぱり地域の方々としっかりと話をするっていうことがとても大事なことだと思いますので、今後も設計の段階までにこういう形で議論をして総合教育会議の場なんかでも確認をしながら、こういう学校環境改善というのを進めていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いをいたします。ではちょうど時間と相成りましたので、次長にお願いしましょう。

教育次長 はい、それでは2番のその他でございますけれども、事務局からはございませんが、各委員の皆さまから、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、ございませんようですので、これを持ちまして、本日の事項はすべて終了致しました。前葉市長から閉会のご挨拶を、お願いいたします。

市長 では以上をもちまして、第6回津市総合教育会議を終了致しますが、実は、この後ですね、来年度の予算要求とか人員要求とかですね、県教委との調整とか、そんな時期になってくるんですよ。たまたま今、学力向上のところで、次回もやりましょうということになりましたが、この後色々な議論をする中で、教育委員サイドからも出てくるかもしれません。あるいは、私どもの市長部局の財政サイドなり、人事サイドからも出てくるかもしれませんが、テーマが出たところで、包括的に全部、網羅的に全部やるっていうのは、この場で

は無理だと思いますが、ちょっとトピックス的に色々出てきたことで、場合によってはこの総合教育会議で議論していただいた方がいいということも出てくると思われますので、その節は、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

次長 すみませんちょっと一点。建設年度のことで、私、４７年と申し上げましたが、給食室が４７年で、本館の方は当初は４４年ということで訂正させていただきます。申し訳ありません。

市長 はい、ありがとうございます。

各委員 ありがとうございます。